

令和5年5月22日

川西市議会議長 様

会派(呼称)名 市民ファーストかわにし

議員名 加茂文子

※議員名欄は署名又は記名

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

- | | | | |
|---------|-------------|------|------|
| 1 調査者氏名 | 市民ファーストかわにし | 斯波康晴 | 加茂文子 |
| | 連合かわにし市民の会 | 岡留美 | |
| 2 調査先 | 丹波市立中央小学校 | | |
| 3 調査期間 | 令和5年5月8日 | | |

4 調査結果の概要

・調査報告は別紙参照

- 【調査先】 丹波市立中央小学校
- 【実施日時】 令和 5 年 5 月 8 日（月） 9:15～11:00
- 【調査目的】 丹波市立中央小学校の複数学年複数担任制の取組について
- 【調査者】 川西市議会 市民ファーストかわにし 斯波康晴・加茂文子
連合かわにし市民の会所属 岡留美
- 【対応者】 丹波市議会事務局事務局長 兼 議事総務課長 井尻宏幸氏
- 【説明者】 丹波市教育委員会 学校教育課 指導主事 足立浩基氏
丹波市立中央小学校 校長 黒田睦美氏
- 【実施概要】 開会あいさつ
学校の概要説明
授業参観（5，6年生）
複数学年複数担任制について 説明と質疑応答（説明資料添付）

【調査内容】

本市では本年度より市立多田小学校において3年生以上の学年担任制の取組が始まった。高学年対象の教科担任制への取組は始まっているが、学年担任制は初めての取組であることから、保護者や教職関係者からも期待と不安、双方の声を仄聞する。また、児童には複数の教師が入れ替わる複数担任制度において、自分の思いや困っている時の相談等を伝えていけるか等の懸念もある。一方、学校運営の現状を踏まえた改革の必要性は理解し、学校現場の主体的な新たな取組の姿勢は評価し、その成果に期待するところである。

そこで、複数学年複数担任制を先進的に導入する丹波市立中央小学校を視察し、児童、教職員及び学校運営、教育委員会それぞれの観点からみた状況（成果と課題等）について調査を実施した。

【主な質問事項】

- ・ 学年担任の決め方、人数等配置の状況について
- ・ 複数学年複数教科（担任制）別の授業状況について
- ・ 朝の集まりや帰りの会、学級会、児童会活動などの状況について
- ・ 通知表の作成、クラス懇談会、個人懇談などの保護者対応の状況について
- ・ 運動会などの大きな学校行事の状況について
- ・ 児童のトラブルなどが起きた場合の対応、状況について
- ・ 特別支援学級の児童に対する配置、対応、状況について
- ・ 学年担任以外の教員の役割分担、配置などの状況について など

【調査の所感】

■従来の学級担任制度が教員の質と量のマンパワー不足、学級崩壊等への対応に限界となりつつある昨今、複数担任制のメリットが確認できた。教員の視点では働き方改革や指導力の質的向上、複数眼的な子どもたちの評価・成長見守りや生活指導上、子どもたちの視点では自立心や生活力の向上、子どもたち同士の集団協力、複数教員との繋がりによる問題解決の可能性の向上等、正に「チーム学校」としての取組であると感じられた。一方、特定の担任が継続的に生活指導を支援できないため、子どもたちに関わる複数の教員による情報交換が日々欠かせないこと、また、新しい時代や学校運営を見据えた学校教育の改革への取組や質の高い教育活動の確保には、教員個々の力量や学校運営改善等の学校現場の工夫に頼るのではなく、教育環境整備はもとより教育人材育成、財政的支援等に対する国・自治体の抜本的な政策的後押しが不可欠と再認識した。

(市民ファーストかわにし 斯波康晴)

■県産木材(多分)をふんだんに使用した気持ちよい校舎で、入学から卒業まで、自分のものとして使える机(生徒の卒業時に天板を外して、卒業生が貰える)もよく考えられていて、愛着のわく校舎や機材の工夫に先ず、感心しました。図工学習の子ども達は校舎を自在にを使ってグループ学習をしており、社会の授業中の生徒からは、「今日は政治家の方が見学にきておられます。折角なので、質問のある人」と先生の呼びかけで、忌憚のない質問が次々と出て、やり取りをするなど、明るく元気で物怖じしない子ども達の、澁刺と、和気藹々とした授業を見せて貰えました。書道の時間は、のびのびと書写をする子ども達を、教頭先生がサポートしておられました。その後、校長先生、教頭先生をはじめとして、高学年担当の先生方からパワーポイントを活用した丁寧な説明を受け、中身の濃い質疑応答の時間を持つことができました。教育環境の充実には正解はなく、学校の特性、地域性等々、多様な環境に合わせつつ、働き方改革、学校運営、子どもの育ち、地域や家庭との連携等々のバランスをとりながら、よりよい方向性を模索し、取り組みを進めておられる姿に、今の教育現場の苦悩と先生方の奮闘を実感できました。少子高齢化が県下の他市町を凌駕する勢いで進む当市においても、他に増して切実な課題であり、当市の今後に資する調査となりました。(連合かわにし市民の会 岡留美)

■川西市で一つの小学校が複数担任制を始めるということもありぜひ視察に行きたいと希望しましたが、ちょうど東京の千代田区で校長をされ、宿題廃止、定期テスト廃止、固定担任制廃止などを実践されてきた方の新聞記事や著書を読んでいたところだったのでとてもタイムリーでした。中央小学校で、複数担任制を始められた校長先生もその校長先生にお話を聞きに行ったりしながら、随分と研究されたとおっしゃっていました。子どもの視点、教師の視点、保護者の視点いろんな視点から考えること。子どもにどんな力を育てたいのか…いろいろ熟慮されながらの挑戦とありますが、始まってからも子どもの意見や保護者の意見を聞き、試行錯誤しながら、子どもにとって良いように変えるところは変え、よりよいものにしていこうという姿勢や勢いが先生方から感じることができました。大変なこともあると思います。でも子どもを複数の教師でいろんな角度で見えていくことは子どもにとっても救われることも多いし、教師も自分だけの見方でなく多面的に子どもを見ることができるとを経験できることにつながり、「こどもをみる」ということがどういうことかわかっていくと思います。

また今回複数担任制だけでなく、1年生の「スタートカリキュラム」や、縦割りでの「ジャンボタイム」などいろんな取り組みも知ることができました。もちろん、学校の規模が違うのですべてを川西でも取り入れることはできないかと思いますが、教師の働き方改革にもつながっていくことにもなるとわかったので、できる範囲で教育委員会とも連携できればと思いました。(市民ファーストかわにし 加茂文子)

